高山社と地域づくり

高山社跡の世界遺産登録に向けては３つの要素が必要でした。１つはその施設が保存されていることです。これについては、申請書類を提出してから１年半程度で国指定史跡となるほど、以前から管理されていました。２つ目は、その史跡が調査されていることであり、皆さん方に集中的に資料を用意していただき、要件を満たすことができました。３つ目はその史跡が地域住民に理解されていることです。理解とは、顕彰団体の存在、高山社を考える会が重要な役割を果たしたと考えています。平成２０年に高山社を考える会を設立し、最大で７００人の方に会員となっていただきました。

なぜ私が世界遺産登録に向けて取り組んだかというと、清温育を教えたその心を広めたかったからです。

まちづくりで一番大切なことはその地域が豊かになることだと考えています。その地域にお金が入ると消費が生まれ、その消費がまた次の生産を生み、更に地域が豊かになります。清温育を広めるために学校を設立し、さらに分教場により、１００分の１の授業料で学ばせるという考え方が素晴らしいと思います。高山長五郎の座右の銘「国利民福」、町田菊次郎の「救世済民」。私はこの言葉が大好きです。

心を育てるまちづくり

まちづくりでは、皆さんもおそらく苦労していると思いますが、何のために皆さんが活動するのでしょうか。行政が色々なものをつくりますが、それに魂を入れるのが、我々民間の役割だと考えています。行政がつくったものを活かして、「あのまちに行ってみたい」「あのまちの価値を知りたい」と思ってもらう。そのために皆さんが活動をするのだと思います。

世界遺産となった富岡製糸場と絹産業遺産群の本当の価値は「もの」ではありません。確かに明治の建物が残っていることはとても素晴らしいことですが、大切なのはその心だと思うのです。まちづくりはものをつくることではありません。人をつくっていただきたいのです。まちづくりにおいては、その地域を豊かにしようという心が一番大切だと考えています。